

強まる自衛隊強化軍事大國化攻撃許すな!

政府・防衛庁は、多くの労働者人民の反対の声を無視して、自衛隊のリムパック80(環太平洋合同軍事演習)への参加を強行しています。1月25日、護衛艦2隻横須賀出港を皮切りに、2月10日、対潜しよう戒機「P2J」四機、2月11日四機を出発させました。このリムパック80への初参加をもって、ついに自衛隊の海外派兵の第一歩が踏み出されたといえます。このことこそ、日本の戦後史を画する決定的大攻撃であり、日本の労働者人民をふたたび侵略戦争にひきづりこむ一大攻撃であります。このリムパック攻撃を許すことは日本の労働者人民が、日本帝国主義の侵略戦争と戦争準備の攻撃に協力し、加担し、動員されることを意味することであり、加担し、動員されることを意味することです。この侵略戦争政策阻止の闘いに決起することが早急にもとめられています。かかる中において護憲反安保千葉県実行委員会、2月16日、リムパック反対、館山地区集会を開催し、館山海上自衛隊基地へ抗議行動を取組むことを決定しました。われわれは、この2・16集会成功へむけ全力で決起しよう。

戦争の危機を深める世界情勢

イラン・アフガン情勢の激動的展開は、米・ソを中心とした戦後世界体制が崩壊局面へ突入し、戦争への衝動が世界情勢を突き動かす時代であることを告げしらせています。すでにアメリカは、ソ連のアフガニスタン軍事侵攻を口実としてイラン・中東・アジアへの軍事侵略、侵略戦争体制の一挙的強化をはかろうとしています。カーターの「中東派遣緊急即応部隊」構想こそ、その具体的な表われであります。同時に、ソ連のアフガン軍事侵攻が、アメリカをはじめ各国帝国主義の軍拡攻撃をおし進める反動的役割をはたしているといえます。

反動と侵略戦争政策を推進する日本帝国主義

一方、日本帝国主義は、激動する世界情勢の中で、海外の権益と資源と市場を確保する為らにむき出しの帝国主義的侵略政策を急ピッチに進めています。

すなわち、日本帝国主義は、「自衛隊スパイ事件」を利用して反ソ反共意識をあおり、自衛隊強化に国民の国防意識高揚のイデオロギー攻撃をもって、リムパック80への参加を強行しています。そればかりか、大平首相は、カーターの中東軍事侵略政策に対し「米国のこうした態度を支持してしかるべきだ」(1月29日衆院本会議)とし、沖繩海兵隊の中東軍事侵略出撃を「安保条約上問題がない」(同前)と語り、沖繩の侵略前線基地化攻撃を公然といはなっています。また、2月7日、日向関西経済団体連合会会長は、「わが国

も防衛費を国民生産(GNP)比1.9%に上げ、防衛力の強化、国防意識の高揚をはかれ、さらに非常時に備え徴兵制度の研究が必要な段階にきている」と語り、侵略戦争遂行にむけた国内総動員体制作りを提唱するにいたっています。

2・16リムパック反対集会に結集しよう!

こうしたなかにあつて社会党をはじめとする「革新」政党は、反戦、反安保、護憲の原則をなげすて、「国益」論議にまきこまれ侵略と反動攻撃に屈服しているのが現状であります。「連合の時代」「社公民路線」は、その屈服と変質のあらわれといえます。こうした流れと軌を一にして総評をはじめ日本労働運動は右傾化を早め、産報化への道をつきすすんでいます。われわれは、この否定すべき現実を突破するものとして職場・生産点からリムパック反対の闘いをまきおこし、支配階級の侵略政策に対決する労働運動をつくり出さなければなりません。

2・16リムパック反対館山地区集会

- 1. 2月16日13時
- 2. 場所 館山市北条中央公園

(労働千葉は、13時に館山運転区に結集のと)

リムパック反対 館山地区集会に結集しよう!

2/16

三里塚・ジェット闘争貫徹 / 「国鉄35万人体制」粉碎!